

研究・調査報告書

報告書番号	担当
568	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
The role of race/ethnicity in alcohol-attributable injury in the United States. アメリカにおけるアルコールが起因する障害の人種及び民族の役割について	
執筆者	
Keyes KM, Liu XC, Cerda M	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Epidemiol Rev. 2012 Jan;34(1):89-102. Review.	
キーワード	
人種、民族、飲酒、事故、障害	
要 旨	
目的： 世界中で負傷者の多くの割合は、飲酒に起因するもので、アメリカにおいては、人種、民族グループによって飲酒パターンがかなり異なることが示されている。	
方法： 著者らは、アメリカにおける飲酒に起因する傷害と同様に血中アルコール濃度陽性の傷害や死亡の割合を人種や民族の違いに関して 19 の論文から検討した。	
結果： 19 の論文から得た結果は、他の民族や人種と比較するとネイティブアメリカンは、アルコールに起因した車両の衝突事故での死亡や自殺が多く、逆にアジアの民族においては、アルコールに起因する傷害が少ないことがわかった。ヒスパニック系民族における血中アルコール陽性と中毒の割合は、飲酒量から推定されるよりかなり高かった。また、黒人のサブグループは、子供に致命的な傷害を負わせたドライバーも含め、血中アルコール濃度の陽性者は予測よりも高かった。	
まとめ： これらの結果は、飲酒と傷害に関して、ネイティブアメリカンの集団において公衆衛生で継続して注視する必要性を強調している。さらに、ヒスパニック系民族と黒人のグループの飲酒に起因する傷病死亡率と報告される飲酒率との差については、見落とされがちである。著者らによる、アルコールに起因する傷害の人種/民族格差の潜在的な社会的決定要因を検討は、これらのパターンのさらなる研究の重要性を示唆する。	